

# 名張市 非常食で協定

名張市は18日、非常用食品などを各家庭に無料提供している日本非常食推進機構(四日市市)と災害救助に必要な物資の調達に関する協定を結んだ。災害時市からの要請で同機構が速やかに物資を用意するほか、市民の防災意識を高める運動を展開する。(矢澤秀範)

協定調印式で「白い小箱」を前に握手を交わす亀井利克市長(左)と古谷賢治・日本非常食推進機構代表理事(右)。



## 災害時、推進機構と 市長「自助・共助・公助で協力」

同機構は、災害時に備えて協賛企業などから寄付金を募って非常食を購入し、各家庭に配布する「白い小箱運動」を進めている。ペットボトルの水2リットル▽アルファ米2袋▽アルミ製温熱シート▽尿取りパット―など1日分の物資を小箱に詰め、賞味期限などに伴い定期的に入れ替える。被災地への支援物資としても活用できる。3月中旬、市に300箱寄贈して各地域づくり組織に20箱ずつ配布するほか、各家庭にも自主的な備蓄を呼びかける。

協定調印式で亀井利克市長は「南海トラフ巨大地震に備え、市民の防災意識が高まっている。自助・共助・公助が適切に機能するよう協力いただきたい」と話した。同機構はNPOを母体とした一般社団法人で、これまでに県と県表理事は「防災教育も推し進めたい」と応えた。同機構はNPOを母体とした一般社団法人として、これまで県と県内14市町と同様の協定を締結。運動を全国に広げるため、今春の公益財団法人移行を目指している。

毎 日 新 聞